

2023年3月22日

各 位

会 社 名 アシードホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 河 本 大 輔
 (コード番号 9959 東証スタンダード)
 問合せ先 取締役専務執行役員経営企画グループ 川 崎 弘 敬
 (TEL. 084-923-5552)

静岡ローストシステム株式会社及びマルサン萩間茶株式会社の
 株式取得及び簡易株式交換による完全子会社化に関するお知らせ

当社は、2023年3月22日開催の取締役会において、当社を完全親会社、静岡ローストシステム株式会社（以下「静岡ローストシステム」という）とマルサン萩間茶株式会社（以下「マルサン萩間茶」という）の株式を取得（以下「本株式取得」という）及び当社を完全親会社、静岡ローストシステムを完全子会社とする株式交換を行うこと（以下「本株式交換」という）を決議し、下記のとおり株式譲渡契約及び株式交換契約を締結いたしましたのでお知らせいたします。

なお、本株式交換は、会社法796条第2項に基づき、当社の株主総会の承認を必要としない簡易株式交換の手続きにより行う予定です。

1. 本株式取得及び株式交換の目的

アシードグループは「ASEEDING THE FUTURE 人、地球、未来 — すべての笑顔と健康のために」のグループビジョンのもと、自販機運営リテール事業と飲料製造事業を主力に事業を展開しています。自販機運営リテール事業は青森から沖縄までほぼ全国で自販機オペレーターとして展開すると共に、自社ブランド商品アスターなどの開発・製造・販売を行っています。飲料製造事業は国内2社の工場、缶・ペットボトル・瓶に加えソフトパウチ容器にも幅広く対応した製造ラインで主にRTD*、清涼飲料などのOEM・ODM製造を行っております。併せて、機能性表示食品のごぼう茶や桑の葉茶など健康茶の製造・販売にも注力しております。

静岡ローストシステムは、日本を代表するお茶の産地、静岡県牧之原市で1994年にほうじ茶の焙煎を開始し、以来28年間にわたりラインの増設を行い、多様な加工ニーズに対応する企業に成長を遂げています。特に一般茶葉や健康茶まで異物処理や殺菌加工を含めた一貫対応を得意とし、大型ラインで多量加工にも対応しております。また有機JAS認定工場として安全安心の品質管理に努めています。マルサン萩間茶は、健康茶・烏龍茶・紅茶など豊富な茶葉を揃え店舗やネット通販での販売を行っています。

本件は、静岡ローストシステムが持つ原料加工技術とアシードグループが持つ飲料に関わる高い生産技術と徹底した品質管理のノウハウを共有することで、国内トップクラスの安全・安心をお届け出来る体制の維持向上を図るとともに共同研究・開発を進め、ASEEDブランド商品の幅を広げることが出来ます。併せてマルサン萩間茶が持つネット通販のノウハウをアシードグループが活かして事業展開することで、グループビジョンに掲げる「すべての笑顔と健康」の実現を強力に推し進めることとなります。

以上のとおり、当社は静岡ローストシステム、マルサン萩間茶との株式取得及び株式交換がグループビジョン実現に向けての最適な方法と判断し、決議いたしました。

本件では、当社が静岡ローストシステムの発行済株式の全部を取得します。当社は、静岡ローストシステムの発行済株式総数 190 株のうち 147 株を取得し、残り 43 株を株式交換とすることにより静岡ローストシステムを完全子会社化する予定です。

*RTD (Ready to drink) とは、蓋を開けたらそのまま飲める低アルコール飲料のこと

2. 本株式取得について

(1) 本株式取得の日程

株式譲渡契約の取締役会決議日 (当社)	2023 年 3 月 22 日
株式譲渡契約の臨時株主総会決議日 (静岡ローストシステム、マルサン萩間茶)	2023 年 3 月 22 日
株式譲渡契約の締結	2023 年 3 月 22 日
株式取得日	2023 年 4 月 3 日 (予定)

(2) 本株式取得の方法

当社は、2023 年 3 月 22 日付で (3) に記載の相手先である浅井哲也氏との間で株式譲渡契約書を締結し、2023 年 4 月 3 日に静岡ローストシステム・マルサン萩間茶の普通株式を譲り受ける予定です。

(3) 本株式取得の相手先の概要

① 氏 名	浅井 哲也
② 住 所	静岡県牧之原市
③ 上 場 会 社 と 当 該 個 人 の 関 係	当社と当該個人及びその近親者との間には記載すべき資本関係・人的関係・取引関係はありません。また、当社の関係会社および関係者には、当該個人並びに当該個人の関係者には、特筆すべき資本関係・人的関係・取引関係はありません。

(4) 取得株式数、取得価額及び取得前後の所有株式の状況

① 異動前の所有株式数	静岡ローストシステム： 0 株 (議決権の数：0 個、議決権保有割合：0%) マルサン萩間茶： 0 株 (議決権の数：0 個、議決権保有割合：0%)
② 取 得 株 式 数	静岡ローストシステム：147 株 (議決権の数：147 個) マルサン萩間茶：3,000 株 (議決権の数：3,000 個)
③ 取 得 価 額	静岡ローストシステム 952 百万円 マルサン萩間茶 0 百万円 アドバイザリー費用等 (概算額) 79 百万円 合計 (概算額) 1,031 百万円
④ 異動後の所有株式数	静岡ローストシステム： 147 株 (議決権の数：147 個、議決権保有割合：77.4%) マルサン萩間茶： 3,000 株 (議決権の数：3,000 個、議決権保有割合：100%)

(5) 取得価額の算定根拠

当社は、取得価額の算定に際し公平性・妥当性を確保するため、M&A や企業再生のデューデリジェンス・企業価値算定に評価の高いビズリンク・アドバイザー株式会社（以下「算定機関」という）を第三者算定機関として選定いたしました。

算定機関から提出を受けた算定結果、外部専門家によるデューデリジェンスの結果および静岡ローストシステム・マルサン萩間茶の財務状況、業績等を勘案し、静岡ローストシステム・マルサン萩間茶とも協議し、上記（4）のとおり決定いたしました。

算定機関は、静岡ローストシステム・マルサン萩間茶について非上場会社であることから純資産を基準にして企業価値を算出するネット・アセット・アプローチ（修正簿価純資産法）および将来性や期待値を企業価値に反映させるインカム・アプローチ（FCF 法）を採用して株式価値の算定を行いました。なお、FCF 法による分析に用いた対象会社の業績見通しにおいて、静岡ローストシステムについては、大幅な増減益を見込んでいる事業年度があります。2022 年 2 月期は新型コロナの影響を受け、行楽地・自販機等で販売される飲料水に関わる茶葉加工の売上が急減いたしました。2023 年 2 月期は回復、2024 年 2 月期には従来から進めていたラインが完成することから増収増益を見込んでいます。

マルサン萩間茶については、大幅な増減益を見込んでいる事業年度はありません。

3. 本株式交換について

(1) 本株式交換の方式

当社および静岡ローストシステムは、2023 年 3 月 22 日付で株式交換契約書（以下「本株式交換契約書」という）を締結しました。本株式交換契約書に従い、当社を株式交換完全親会社、静岡ローストシステムを株式交換完全子会社とし、その効力を生ずる日（以下「本効力発生日」という）を 2023 年 4 月 12 日として行う予定です。なお、本株式交換は会社法 796 条第 2 項に基づき、当社の株主総会の承認を必要としない簡易株式交換の手続きにより行う予定です。

(2) 本株式交換の日程

株式交換契約締結の取締役会決議日（当社）	2023 年 3 月 22 日
株式交換契約締結の臨時株主総会決議日（静岡ローストシステム）	2023 年 3 月 22 日
株式交換契約書の締結	2023 年 3 月 22 日
本件の株式交換効力発生日	2023 年 4 月 12 日（予定）

(注 1) 本件における株式交換は、会社法 796 条第 2 項に基づき、当社の株主総会の承認を必要としない簡易株式交換の手続きにより行う予定です。

(注 2) 上記日程は、本件にかかる手続進行上の必要性その他の事由によって必要となる場合は、両社が協議し合意の上、変更されることがあります。

(3) 本株式交換にかかる割当ての内容

本件	当社 (株式交換完全親会社)	静岡ローストシステム (株式交換完全子会社)
株式交換に係る割当ての内容	1	11,515
株式交換により交付する株式数	当社普通株式：495,145 株	

(注 1) 株式の割当比率

当社は、静岡ローストシステムの普通株式 1 株に対して当社の普通株式 11,515 株を割当交付いたします。

(注 2) 本株式交換により交付する当社の株式数

当社は、本株式交換に際して、本株式交換の直前時の静岡ローストシステムの株主に対

して、その保有する対象会社株式に代えて、上記表の本株式交換比率に基づいて算出した数の当社株式 495,145 株を割当交付いたします。また、本株式交換に際して交付する当社株式は、全て当社が保有する自己株式により充当する予定であり、新株式の発行は行わない予定です。

(4) 本株式交換に伴う新株予約権および新株予約権付社債に関する取扱い

静岡ローストシステムは新株予約権および新株予約権付社債を発行していないため、該当事項はありません。

4. 本株式交換に係る割当ての内容の根拠等

(1) 割当ての内容の根拠及び理由

当社は、上記「3. 本株式交換について」の「(3) 本株式交換にかかる割当ての内容」に記載の株式交換比率（以下、「本株式交換比率」という）の検討にあたり、公平性・妥当性を確保するため、独立した第三者算定機関を選定し株式交換比率の算定を依頼いたしました。

算定機関から提出を受けた株式交換比率の算定結果および静岡ローストシステムの財務状況や将来の見通し等を踏まえて交渉・協議を重ねた結果、将来予測の蓋然性について雇用環境の厳しさから慎重に考慮することで合意いたしました。本株式交換比率 1:11,515 は「(2) 算定に関する事項」の「②算定の概要」の算定結果・評価レンジ内に位置し、FCF 法の中央値をやや下回るのは、上記協議を考慮したことによるものです。

本株式交換比率が妥当であり、それぞれの株主の利益を損ねるものではないとの判断に至ったため、当社取締役会および静岡ローストシステムの取締役決定に基づき、当事会社間で本株式交換契約を締結することに合意いたしました。

なお、本株式交換比率は、その前提となる諸条件について重大な変更が生じた場合は当事会社間で協議により変更されることがあります。

(2) 算定に関する事項

①算定機関の名称並びに当社および静岡ローストシステムとの関係

算定機関の名称：ビズリンク・アドバイザー株式会社

算定機関は、当社および静岡ローストシステムの関連当事者には該当せず、本株式交換に関して記載すべき重要な利害関係は有しません。

②算定の概要

算定機関は、当社については東京証券取引所スタンダード市場に上場しており、市場株価が存在することから、市場株価法（2023年3月20日を算定基準日とし、算定基準日の終値、並びに算定基準日以前の1ヶ月間および3ヶ月間の各期間の終値の単純平均法に基づき算定）を用いて算定しております。なお、昨今の株式市場の変動を勘案すると、より短い期間の株価で判定することが妥当との考えにより、上記算定各期間を用いることで合意いたしました。

当社株式の1株当たり株式価値の評価レンジは次のとおりです。

市場株価法	562円～578円
-------	-----------

静岡ローストシステムについては、純資産を基準にして企業価値を算出するネット・アセット・アプローチ（修正簿価純資産法）及び将来性や期待値を企業価値に反映させるインカム・アプローチ（FCF法）を採用いたしました。2通りの方法を用いたのは静岡ローストシステムが非上場会社であり客観的な状況を把握することと、将来性を加味した企業価値の分析の両者を行うことがより適切な判断に繋がると判断したためです。なお、FCF法による分析に用いた

対象会社の業績見通しにおいて、大幅な増減益を見込んでいる事業年度があります。

2022年2月期は新型コロナの影響を受け、行楽地・自販機等で販売される飲料水に関わる茶葉加工の売上が急減いたしました。2023年2月期は回復、2024年2月期には従来から進めていたラインが完成することから増収増益を見込んでいます。

当社普通株式の1株当たり株式価値を1とした場合の株式交換比率の算定結果・評価レンジは次のとおりです。

採用方法	静岡ローストシステム 1株当たり株式価値	株式交換比率の算定結果
修正簿価純資産法	5,407,898円～6,609,635円	9,356～11,761
FCF法	5,990,185円～7,321,337円	10,364～13,027

(3) 上場廃止となる見込み及びその事由

本株式交換により、当社は株式交換完全親会社となり、また株式交換完全子会社となる静岡ローストシステムは非上場のため、該当事項はありません。

5. 本件の当事者の概要

アシードホールディングス株式会社は2022年3月31日現在
静岡ローストシステム株式会社は2022年2月28日現在
(単位：百万円、特記しているものを除く)

	当社 (株式交換完全親会社)	静岡ローストシステム (株式交換完全子会社)
(1) 名称	アシードホールディングス株式会社	静岡ローストシステム株式会社
(2) 所在地	広島県福山市船町7番23号	静岡県牧之原市大寄542番地1
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役 河本大輔	代表取締役 浅井哲也
(4) 事業内容	グループ会社の経営戦略及び管理統括(持株会社)	お茶の受託加工業
(5) 資本金	798百万円	10百万円
(6) 設立年月日	1972年11月20日	1994年9月1日
(7) 発行済株式数	13,495,248株	190株
(8) 決算期	3月末	2月末
(9) 従業員数	579名(連結)	73名
(10) 主要取引先	国内外の一般法人	国内の製茶メーカー等
(11) 主要取引銀行	広島銀行、中国銀行、三井住友銀行、三菱UFJ銀行	静岡銀行、島田掛川信用金庫
(12) 大株主及び持株比率	サンコモト有限会社 40.0% 河本大輔 8.6% 大戸綾加 6.3% 河本ハルエ 4.4% 宝積良忠 4.3%	浅井哲也 100.0%
(13) 当事者間の関係	資本関係	
	当社と静岡ローストシステムの間には記載すべき資本関係はありません。また、当社との関係会社および関係者には、静岡ローストシステムおよび静岡ローストシステムとの間に特筆すべき資本関係はありません。	

人的関係	当社と静岡ローストシステムの間には記載すべき人的関係はありません。また、当社の関係会社および関係者には、静岡ローストシステムおよび静岡ローストシステムの関係者との間に特筆すべき人的関係はありません。
取引関係	当社と静岡ローストシステムの間には記載すべき取引関係はありません。また、当社の関係会社および関係者には、静岡ローストシステムおよび静岡ローストシステムの関係者との間に特筆すべき取引関係はありません。
関連当事者への 該当状況	該当事項はありません。

(14) 直近3年間の経営成績及び財政状況

決算期	当社(連結)			静岡ローストシステム(単体)		
	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2020年 2月期	2021年 2月期	2022年 2月期
(連結)純資産	5,156	5,336	5,104	860	1,022	950
(連結)総資産	14,978	14,599	15,112	1,404	1,652	1,583
1株当たり(連結)純資産	416.47円	431.01円	434.43円	4,300,770.00円	5,112,120.00円	4,753,440.00円
(連結)売上高	25,496	23,931	19,282	2,475	2,632	2,395
(連結)営業利益	558	429	647	151	181	65
(連結)経常利益	656	640	903	168	256	72
(親会社株主に帰属する) 当期純利益	353	304	178	△3	162	△71
1株当たり(連結) 当期純利益	28.55円	24.57円	14.66円	△15,010.00円	811,345.00円	△358,680.00円
1株当たり配当金	12.00円	12.00円	12.00円	-	-	-

マルサン萩間茶株式会社は2022年2月28日現在
(単位：百万円、特記しているものを除く)

マルサン萩間茶	
(1) 名称	マルサン萩間茶株式会社
(2) 所在地	静岡県牧之原市大寄 524-4
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役 浅井哲也
(4) 事業内容	お茶の店舗・通信(ECを含む)販売業
(5) 資本金	3百万円
(6) 設立年月日	1981年4月1日
(7) 発行済株式数	3,000株
(8) 決算期	2月末
(9) 従業員数	2名
(10) 主要取引先	一般消費者
(11) 主要取引銀行	静岡銀行、島田掛川信用金庫
(12) 大株主及び特株比率	浅井哲也 100.0%
(13) 当事者間の関係	
資本関係	当社とマルサン萩間茶の間には記載すべき資本関係はありません。また、当社の関係会社および関係者には、マルサン萩間茶およびマルサン萩間茶の関係者との間に特筆すべき資本関係はありません。

人的関係	当社とマルサン萩間茶の間には記載すべき人的関係はありません。また、当社の関係会社および関係者には、マルサン萩間茶およびマルサン萩間茶の関係者との間に特筆すべき人的関係はありません。
取引関係	当社とマルサン萩間茶の間には記載すべき取引関係はありません。また、当社の関係会社および関係者には、マルサン萩間茶およびマルサン萩間茶の関係者との間に特筆すべき取引関係はありません。
関連当事者への該当状況	該当事項はありません。

(14) 直近3年間の経営成績及び財政状況

決算期	マルサン萩間茶(単体)		
	2020年 2月期	2021年 2月期	2022年 2月期
純資産	56	49	52
総資産	162	150	146
1株当たり純資産	18,680.00円	16,464.00円	17,449.00円
売上高	74	70	67
営業利益	△1	△3	2
経常利益	0	△2	3
当期純利益	0	△6	2
1株当たり 当期純利益	59.67円	2,216.00円	985.00円
1株当たり配当金	-	-	-

(注1) 静岡ローストシステム及びマルサン萩間茶の業績については、収益認識に関する会計基準等の適用前の数値です。

6. 本件実施後の状況

本件による株式交換完全親会社の名称、所在地、代表者の役職・氏名、事業内容、資本金、決算期に変更はありません。

7. 会計処理の概要

本株式交換に伴う会計処理は、「企業結合に関する会計基準」における「取得」に該当します。なお、本株式交換により発生するのれんの金額は、現時点で未確定です。

8. 今後の見通し

本件により、静岡ローストシステム、マルサン萩間茶は当社の連結子会社となる予定です。連結業績に与える影響は、本件が完了する来期以降となります。来期の連結業績に与える影響等につきましては、当期の通期連結業績と同時に公表予定の2024年3月期の業績予想に反映する予定です。

以上

(参考) 当期連結業績予想(2022年5月13日公表分)及び前期連結実績

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益
当期連結業績予想 (2023年3月期)	20,000	820	920	600
前期連結実績 (2022年3月期)	19,282	647	903	178